

那須平成の森だより

自分だけの自然に出会う

第8回 「那須平成の森で行う環境教育」

那須平成の森では、インタープリテーション計画のもと、ガイドウォークや学校団体等へのプログラム提供などを実施していますが、それらの根底にあるのは環境教育です。

環境教育とは、狭義では「環境問題に対して自律した課題解決の行動が取れる人を育てる教育」という意味がありますが、広義では、「自分、自分と他者、他者同士の間関係、それらの人間と自然を良好な関係で構築するためのあらゆる学び」という意味もあります。

那須平成の森のプログラムは、狭義と広義の両意味を土台として構成しています。最も大事なことは参加者が「主体的に関わる」とこの重要性を理解してもらうこと。環境問題や人間関係は、「自分事」として受け止めない限り解決には届かないからです。そのため、私たちは参加者一人一人に傾聴し共感することを心掛けています。具体的には実施するプログラムの作り方や、さまざまな年代層を対象にするための対象者理解、

伝え方・伝わり方等のコミュニケーション手法を研修し、またOJTで日々研さんを積んでいます。



「キノコの森歩き」ガイド。キノコと森の関係はとても複雑。参加者一人一人の関心や疑問に寄り添い、丁寧に展開していく

実際のプログラムでは、限られた時間内でねらいを達成するために小活動（アクティビティ）を組み立てますが、感覚や思考力から受容できるように「導入」、「本体」、「まとめ」という起承転結に則った形で流れをつくり出します。小学生には小学生に理解できる表現や注意力が必要であり、大人には大人に分かりやすい表現が必要、そして誰をも尊重する姿勢が必要です。キャリアの少ないインタープリターは、「やること」に集中してしまい、受け手の心理に寄り添うことができないことが多々ありますが、ここは年季を重ねて人間理解を深めます。

プログラムの評価は、ガイドウォークではアンケートを、団体プログラムの場合には、終了した後、時間を置かず関わったインタープリター同士で行う評価会と参加者からのアンケートを総合的に振り返り、プログラムを改善していきます。人を相手にする活動ですので、この取り組みは永遠に続きます。

那須平成の森フィールドセンター
インタープリター 若林千賀子

かつこう

「季節の分かれ目」を意味する節分は、本来は立春、立夏、立秋、立冬の前日をさし、年に4回あります。現在では立春の前日（今年は2月2日）にのみ行事が行われていますが、それは旧暦の一年が「春」から始まることに由来します。この「春」とは今のようには季節をさすだけではなく、まさに新年の

象徴でした。つまり、立春は正月と同じくらい大事な日なのです。▼その立春の前日である節分は、大晦日のように年の分かれ目を兼ねた特別な日なのです。だから、新春に向けて、悪いことを引き起こす邪気や冬の寒気を鬼に見立てて豆をまき追いや払うのだと知ると、納得がいきます。▼また、鬼を追い払うために、鬼の苦手な柊に、焼いた鯛の頭を刺してつくる「焼いた鯛の頭を刺してつくる」がしがし。子どもの頃、祖母が

玄関先につけていたのを思い出します。▼立春を過ぎれば「暦の上では春」。梅の開花が待ち遠しい季節です。動植物がじつと寒さに耐えているなかで、いち早くつぼみがふくらみ早春に咲く花として、とてもおめでたいとされています。▼開花まで、私たちがもうしばらくは寒さに耐え、梅の花が咲くにつれ、これから少しずつ暖かくなる、そんな喜びを感じられる春になることを願っています。

こんにちは

赤ちゃん



令和元年7月19日

のあ
本田乃蒼ちゃん (湯本)

父 圭佑さん
母 美千代さん

乃蒼ちゃんは…
歌とダンスが大好きな明るく元気な女の子です！

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。
詳しくは総務課広報広聴係(☎72-6901)まで。

町の世帯と人口 (1月1日現在・住民基本台帳) ()の数字は前月比

●世帯数 10,423世帯 (+19)
●人口 24,756人 (+11)
男 12,321人 (+8)
女 12,435人 (+3)

出生 5人 (+ 1)
死亡 30人 (+ 4)
転入 92人 (+37)
転出 54人 (-17)
その他 6人

()内は12月1日との比較